

春曙文庫蔵

## 源氏物語断簡（別本） ふぢのうらば翻刻

柿谷雄三

この源氏物語断簡（ははきぎ・ふぢのうらば・はしひめ・やどりぎ・てならひ）は、故田中重太郎博士が愛蔵せられていたもので、ただ今は、本学図書館春曙文庫の蔵本となっている。このたび原本を直接精査する機会を得たので、ここに、「ふぢのうらば」十二丁、「はしひめ」二十丁、「やどりぎ」十二丁、「てならひ」十二丁を順次活字化していくこととした。

本断簡は、かつて昭和三十九年十月、京都の東風社から、原寸大のコロタイプ印刷、綴葉装、桐箱入で限定出版された。目下この複製本も古書目録等に出ることはきわめて稀で、入手も次第に困難となってきた。また同複製には田中博士の筆になる解説と釈文（解説一八頁・釈文九頁）が附せられているものの、釈文は「ははきぎ」十丁分だけにとどまっている。

活字化するにあたって、草仮名、漢字等を現行の文字に改めた外、行数、書入、ミセケチなどは、できるだけそのままとし、原本のおもかげを、少しでも伝えるようにつとめた。（写真版参照）

各断簡はいずれも、いわゆる升型本で、本文十行書き、料紙は斐紙を用い、ところどころ、型紙をおいて、代赭粉

によるぼかし絵（花・鳥・紅葉・月など）の入っているところもある。書写年代は鎌倉後期以前のものかと思われ、筆者は詳らかではないが、数名によるより合い書きのようである。それぞれの寸法は次のごとくである。

ははきぎ・ふぢのうらば 縦一六・六糎 横一五・六糎

はしひめ 縦一六・八糎 横一五・六糎

やどりぎ 縦一六・二糎 横一五・六糎

てならひ 縦一六・六糎 横一五・〇糎

本文の系統は、田中博士の解説にもあるごとく、まず別本系統と認めるべきであり、中でも「ふぢのうらば」「やどりぎ」の本文は、別本中、陽明文庫本との一致が多くみられ、「てならひ」の巻は青表紙系統本かとも思われるが、何分断簡のこととて、結論は急がず、ひとまず本文の提供によって、大方のご示教をまつこととした。

なお「ふぢのうらば」十二丁は、『源氏物語大成』巻二

「なみる人からや色もますらん……」（一〇〇三頁1行目）から

「ひるなのやうなる御有さまをゆめの心ちして」（一〇二頁9行目）

までである。

参考までに、『源氏物語大成 校異編』のふぢのうらばの巻の本文（大島本）との主要異同を脚注として示した。漢字・かな・かなづかい等の、読み違いの生じないと思われる異同は原則として省略した。例えば「ますらん—まさらむ」と示した上の「ますらん」は本断簡の本文、下の「まさらむ」は源氏物語大成の本文（大島本）である。

まをさへも川のそとにありまよふあて  
 かりとまわれまゝにくぐりてまゐるは  
 いかにもかきうつらつたうづらもまを  
 ちもたもくもくまもくまもくまもくま  
 けりあまのつもの所さたりつくとか  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも

まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも  
 まをさあつてくもまをさあつてくも

源氏物語断簡 ぶちのうらば 一丁裏・二丁表

「430のうらばは翻刻」

なみる人からや色もまさらんつきくす  
 むなかれためれとゑひのまされにはかくし  
 からてこれよりまさらす七日の夜ゆふ  
 つくよかけほのかなるにいけのかゝみのとか  
 にすみわたれりみるにまたほのかなること  
 すゑともさうくしきころなるにいたうけし  
 きはみよこたはれるまつのこちたきほと  
 にはあらぬにかゝれるはなのさまよのつね  
 ならすをもしろしいの弁少将こゑいと  
 なつかしうてあしかきをうたふをとゝ

(二丁オ)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

〔春曙文庫本—源氏物語大成本〕

1 ますらん—まさらむ

1 すむなかれためれ—すんなかるめれ

3 七日の夜—七日の

5 みるに—けに

5 こそゑとも—木すゑどもの

6 ころ—比

7 こちたき—こたかき

10 なつかしうて—なつかしくて

けやけくもつかうまつるものかなと  
 うちみたれたまひてとしへにけるこの  
 いゑのとうちくはへたまへるいとをもし  
 ろしをかしきほとにみたれかはしき  
 御あそひにてもものをもひのこらすな  
 りぬめりやうく夜ふけ行ほとに  
 いたうそらなやみしてみたり心ちい  
 とたえかたくまかてむそらもほとく  
 しくこそはむへりぬへけれとゝのゑ所  
 ゆつりたまひてむやと中将にうれへ給

(二丁之)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

1 けやけくも—いとけやけうも  
 1 つかうまつる—つかふまつる  
 1 ものかな—かな  
 3 いと—御こゑいと  
 4 みたれかはしき—みたりかはしき

「ぶぢのうらば翻刻」

をとゝあそむやその御やすみところも  
とめよをきないたうゑいすゝみて  
むらいなれはまかりいりぬといひすてゝ  
いりたまひぬ中将はなのかけのたひねよいか  
にそやくるしきしるへにそはへるやとのた  
まへはまつに契れるはあたなるはなかは  
ゆゝしやはとてせめ給中将は心のうちにねた  
のわさやと思所あれと人さまのおもふさま  
にめてたきにかうもありはてなむと  
こゝろよせわたる事なれはうしろやすく

(三丁オ)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

1 その御やすみところ—御やすみ所

5 のたまへは—いへは

6 契れる—ちきれる

7 ゆゝしやはとて—ゆゝしやと

8 思所—おもふところ

道ひきつをとときみはゆめかとおほえ	1	1	道ひきつ—みちひきつ
給にも我みいとゝいつかしようそおほえ給けむ	2		
かしをむなはいとはつかしとおもひしみ	3	3	をむな—女
てもものしたまふもねひまされる御有さ	4		
まいとゝあかぬところなくめやすしよ	5		
のためしにもなりぬへかりつるみを心も	6		
てこそかうまでおほしゆるさるめれば	7	7	かうまで—かうまでも
れをしりたまはぬもさまことなるわさか	8	8	わさかなゝと—わさかなと
なゝとうらみきこえ給少将のすゝみいたし	9		
つるあしかきのおもふきはみゝとゝめた	10	10	おもふき—おもむき

(三二七)

「ふぢのうらば翻刻」

	まひつやいたきぬしかなゝかはくちのと	1	
	こそさしいらへまほしかりつれとのたまへは	2	
	をんなきみきゝにくゝおほして	3	3 をんなきみ—女いと にくゝ—くるしと
	あさきなをいひなかしけるかはく	4	
	ちはいかゝもらしゝせきのあしかきあさ <small>ライ</small>	5	5 あしかき—あらかき
	ましとのたまふさまいとこめきたりす	6	6 のたまふ—の給
	こしうちわらひて	7	7 うちわらひて—うちはらひて
	もりにけるくきたのせきをかはく	8	
	ちのあさきにのみはおほせさらなんとし	9	
	月のつもりにいとわりなくなやまし	10	10 つもりに—つもりも わりなく—わりなくて

(三丁オ)



きにものおほえすゑいかちてくる  
 しけにもてなしてあくるもしらす  
 かをなりひとくきこえわつらふをを  
 とゝしたりかをなるあさいかなととか  
 め給されとあかしはてゝそいてたま  
 ふねくたれの御あさかほみるかひ有かし  
 御文はなをしのひたりつるまゝの心つ  
 かひにてあるをなかくけふはえきこえ  
 たまはぬを事はりとものいひさかな  
 きこたちつきしろふにをとゝのわ

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10

(三丁)

1 おほえす—おほえすと  
 1 ゑい—ゑひに  
 7 まゝの—さまの  
 8 けふ—今日  
 9 事はりとものいひ—ものいひ  
 10 つきしろふ—つきしろう  
 10 をとゝの—おとゝ

たりてみたまふにそいとゝわりな  
 きやつきせさりつる御けしきにい  
 とゝ思<sup>(レ)</sup>しらるしみのほとかなたえぬ心  
 なたまきこえぬへきにも  
 とかむなよしのひにしほるても  
 たゆみけふあらはるゝ袖のしつくを<sup>なと</sup>いと  
 なれかほにかき給へるをうちゑみて  
 てをいみしうもかきなれにけるかなゝ  
 とみたまふもむかしのなこりなし  
 御返いといてきかたけなれはいとみくる

(四丁オ)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

1 みたまふにそ—み給ふそ  
 1 いとゝわりなきや—いとほりなきや  
 3 思しらるし—おもひしらるゝ  
 3 みのほとかな—身のほとを  
 4 きこえぬへきにも—きえぬへきも  
 7 にかき給へるを—なり  
 8 かきなれ—かきなられ  
 9 みたまふも—の給も  
 10 いとみくるしや—みくるしや

しやとてさもおほしはゝかりぬへ

き事なればわたり給ぬ御つかひのろ

くなへてならてたてまつり給へり

中将をかしきさまにもてなしたま

ふつねにひきかくしつゝかくろへあり

きし御使けふはをもゝちなと人く

しくふるまふめりうこのそうなる

人のむつまじうおほしつかひ給なり

けり六条のをとゝもかくときこし

めしてけふ宰相つねよりもいといたうひ

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

(四丁ウ)

3 なへてならて―なへてならぬ  
3 たてまつり給へり―さまにて給へり

7 うこのそう―右近のそう

10 けふ―けり  
10 いといたう―いといたうナン

かりそひてまいりたまへれはうち  
 まほりたまひてけさはいかにふみなと  
 ものしつやさかしきひともをんなの  
 すちはみたるゝためしあるをひとわ  
 ろくかゝつらひこゝろいられせてすくさ  
 れたるなんすこしひとにぬけたるみ心  
 となむおほえけるをとゝのみをきての  
 あまりすくみてなこりなくゝつをれた  
 まひぬるをよ人もいひいつる事あらむや  
 さりとても我かたゝけう思かほに心

(五丁才)

10	10	思かほに―おもひかほに
9	9	いひいつる―いひ出る
8		
7	6	み心となむ―御心と
6	6	ぬけたる―ぬけたりける
5		
4	4	すちは―すちには
3		
2		
1	1	うちまほり―うちまもり

おこりしてすき／＼しきこゝろはへなと  
 もらし給なさこそをいらかにおほきなる  
 心をきてとみゆれとしたのこゝろはへ  
 をゝしからすくせ有てひとみえにく  
 き所つきたる人なりなとれいのをしへ  
 きこえ給事うちあひめやすき御ゆかりと  
 おほさる御事もみえすゝこしかこの  
 かみとそ見えたまふほか／＼にてはをな  
 しかをうつしたるとみるををまへにて  
 はさま／＼あなめてたとみえ給へりをとゝ

(五丁ウ)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

5 たる―給へる  
 6 御ゆかり―御あはひ  
 7 このかみとそ―このかみはかりと  
 9 か―かほ  
 9 うつしたる―うつしとりたる  
 9 みる―みゆる  
 9 をまへにて―御まへにて

はうすき御なをししろき御そのから	1	
めきたるかもむけさやかにつやくとす	2	
きたるをたてまつりてなをつきせず	3	
あてになまめかしうおはします宰相	4	4 宰相のきみ—宰相殿
相のきみはすこし色ふかきなをしにちや	5	5 なをし—御なをし 5 ちやし—丁子
しそめのこかるゝましてしめるこゝあやのな	6	6 こゝあや—しろきあや
つかしきをきたまへることさらめきて	7	
えむにみゆくわむ <small>（う）</small> <sup>卯月八日事也</sup> ふつゐてたてま	8	8 くわむ <small>（う）</small> ふつ—灌佛
つりて御たうしをそくまいりければ	9	9 御たうし—御導師
ひくれて御かたぐよりわらはへつくろひいたし	10	10 ひくれ—日暮 10 わらはへつくろひいたし—はらはへいたし

（六丁オ）

1 ふせなとおほやけさまにはかはらすさまく  
 2 にしたまへりをまへのさほうをうつ  
 3 してきみたちなともまいりつとひて  
 4 なかくうるはしき御前よりもこゝろつかひせ  
 5 られてをくしかちなり宰相はしつ心な  
 6 くいよくけさうしひきつくろひていて  
 7 給をわさとならねとなさけたちたまふ  
 8 わかきひとくはうらめしとおもふも有けりと  
 9 ころのつもりとりそへて思やうなる御  
 10 なからひなめれはみつもらむやはあるし

(六丁ウ)

1 おほやけさまには—おほやけさまに  
1 さま—心く

4 御前—こせん  
4 こゝろつかひせられて—あやしう心つかひせられて

8 わかきひとくは—わか人は  
8 ところ—ところ

10 みつもらむ—みつもらむ

のをとゝもいとゝしきちかまさりをう  
つくしきものにおほしていみしうもて  
かしつきゝこえ給まけぬるかたのくちをし  
さはなをゝほせとつみものこるましようま  
めやかなる御こゝろさまなどのとしこる事  
こゝろなくてねんしすくしたまへるなど  
を有かたくおほしゆるす女御の御有さまな  
とよりもはなやかにめてたくあらま  
ほしければきたのかたさふらふ人く  
などはこゝろよからすおもひいふもあれとな

(七丁オ)

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

1 をとゝも—おとゝ

4 のこるましよう—のこるましようぞ

6 ねんしすくし—すくし



1 にのくるしき事かあらむあせちのきた  
 2 のかたなともかゝるかたにてうれしと〔思〕  
 3 おもひきこえ給へりかくて六条の院の御い  
 4 そきは廿よひのほとなりけりたいのうゑみ  
 5 あれにまうて給とてれいの御かたゝいさな  
 6 ひきこえ給へとなかゝさしもひきつゝきて  
 7 こゝろやましきをおほしてたれもゝとゝ  
 8 まりたまひてことゝしきほともあらず  
 9 御くるま廿はかりしてこせむなともく  
 10 くたゝしきひとかすあまはあらず事そ

(七丁ウ)

1 事か―事かは  
 3 給へり―給けり  
 3 六条の院―六条院  
 7 とゝまり―とまり  
 9 廿はかり―廿斗  
 9 こせむ―御前  
 9 くたゝしき―くたゝしき  
 10 ひとかす―人数  
 10 あまは―おほくも

きたまひたるしもけはひことなり  
 まつりのひあか月にまで給てかへ  
 さにはもの御らむすへきよし御さしきに  
 をはします御方くくのひとくおのくくるま  
 ひきつゝきて御前所しめたるほといかめしう  
 かれはそれとゝほめよりをとろくしき御い  
 きをいなりおとゝは中宮の御はゝみやす  
 む所のくるまをしきけられ給へりけむを  
 りの事おほしいてゝ時によるこゝろをこり  
 してさやうなることなんなさけなき事

(八丁才)

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

1 たまひたる―たる  
 2 まつりのひ―まつりの日の  
 2 まで―まうて  
 3 御らむすへきよし―御覧すへき  
 4 ひとく―女房  
 5 御前所―御まへところ  
 6 >ほめより―をめより  
 6 をとろくしき―おとろおとろくしき  
 6 御いきをい―御いきほひ  
 7 みやすむ所―宮す所  
 8 給へりけむ―たまへりし  
 9 時による―時により

なりけるこよなく思けちたりし人も

なけきをうやうにてなくなりなきとそ

のほとはの給けちてのこりとまれる人くくの

中将はかくたう人にてわつかに成のほる

めり宮はならひなきすちにてをはす

るおもへはいとこそあはれなれすへていと

さためなきよなれはこそなに事も思ま

まにいけるかきりのよをすくさまほしけ

れとのこり給はむすゑのよなとはたとしへ

なきをとろへなとをさへおもひはかる<sup>ら</sup>れは

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

(八丁)

2 をうやう—おふやう

3 人く—人

4 成—なり

5 をはする—おはするも

7 思ままに—おもふさまにて

9 などは—などの

とうちかたらひたまひてかむたちめ  
 なども御さしきへつとひたまへはそなたに  
 いてたまひぬ近衛官の使は頭中将なりけり  
 かの大殿にてたつ所よりそひとくまいりけ  
 るとうないしのすけもつかひなりけり  
 おほえ事にてうち春宮よりはしめた  
 てまつりて六条院よりも御とふらひ所せ  
 きまで御こゝろよせいとめてたし宰相中将  
 いてたちのところにとふらひたまへりうちと  
 けすあはれをかはしたまふ御なかなれはか

(九丁オ)

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

2 御さしきへつとひ―御さしきにまいりつとひ  
 2 たまへは―給へれば  
 3 たまひぬ―給ぬ  
 3 近衛官―近衛つかさ  
 3 頭中将―とうの中将  
 4 大殿―おほと  
 4 たつ―いてたつ  
 4 ひとく―人くは  
 4 まいりける―まいりたまふける  
 6 春宮―とうくう  
 7 六条院―六条院など  
 7 御とふらひ―御とふらひとも  
 8 宰相中将―宰相の中将  
 9 ところに―ところにさへ

くやむ事なきかたにさたまりたまひ

ぬるをたゝならすうち思けり

なにとかやけふのかさしよかつみつゝ

おほめくまでもなりにけるかなあさま

しとあるををりすくしたまはぬはか

りをいかゝ思けんいものさはかしくゝるま

にのるほとなれと

かさしてもかつたとらるゝくきのな

はかつらをゝりしひとやしるらむはかせならて

はときこえたりはかなけれとねたきいらへと

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

(九丁ウ)

6 さはかしくゝるまに―さはかしくるまに

おほすなをこのないしにそ思はなれて  
 1 はひまきれたまふへきかくて御まいりには  
 2 きたのかたそひたまふへきをつねになかく  
 3 しようはそひさふらひ給ましかゝるついで  
 4 てにこの御うしろみをやそえましとおほす  
 5 うゑもついなるへきことのかくへたゝりて  
 6 すくしたまふをかのひとものしと思な  
 7 けかるらむこの御心にもいまはやうくおほつか  
 8 なくあはれにおほししるらんかたゝこゝろを  
 9 かれたてまつらむもあいなしとおもひな  
 10

(十丁表)

1 はなれて―はなれず

2 御まいりには―御まいりは

4 はそひさふらひ給まし―えそひさふらひ給はし

5 この―かの

6 ついなるへき―つみにあるへき

りたまひてこのをりにそへたてまつり  
 給へまたいとあえかなるほともうしろめ  
 たなきにさふらふひとくともわかしくし  
 きのみこそおほかれ御めのとたちなとも  
 みをよふかきりあるをみつからはつとしも  
 さふらはさらむほとうしろやすかるへうと  
 きこえ給へはいとよくおほしよる事かな  
 とおほしてきなんとあなたにもかたらひ  
 たまひければいみしうゝれしう思事かなふ  
 心ちしてひとのさうそくなにかのこと

(十之)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

2 うしろめたなきに—うしろめたなきに  
 3 ひとく—人  
 5 かきり—ことの心いたるかきり  
 5 つとしも—えつとしも  
 6 うしろやすかるへう—うしろやすかるへく  
 7 事かな—哉  
 9 たまひければ—の給ければ  
 9 いみしうゝれしう—いみしくうれしく  
 9 かなふ—かなひ侍る

もやむ事なき御有さまにをとるまし  
 ういそきたつあまきみんなをこの御を  
 ひさきみたてまつらむのこゝろふかゝりけ  
 るいまひとたひみたてまつらむよもと  
 命をさへしうねくなくてねんしける  
 をいかにしてかはとおもふもかなしその  
 よはうゑまいり給に御てくるまなにも  
 たちくたりうちあゆみなとひとわろか  
 るへきを我御ためはおもひはゝからすたか  
 くみかきたてたてまつり給たまのきす

(十二才)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

1 をとるましう―おとるましく  
 4 たてまつらむ―奉る  
 5 しうねく―しふねく  
 7 うゑまいり給―うへそひてまいり給ふ  
 御てくるまなと―さて車  
 8 ひとわろかるへき―人わるかるへき  
 9 御ためは―ためは  
 たかく―たゝかく  
 10 たてたてまつり―たてまつり



1 にて我かくなからふるをかつはいみし  
 2 うころくるしとおもふ御まいりのきしき  
 3 ひとのめをとろかすはかりのことはせしと  
 4 おほしつゝめとをのつからよのつねのさまに  
 5 そあらぬやかきりもなくかしつきすへ  
 6 たてまつり給てうゑはまことにうつくし  
 7 とみたてまつり給につけてもひとにゆ  
 8 つるましくま事にかゝる事もあら  
 9 ましかはとおもほすをとゝも宰相のきみも  
 10 たゝこの事ひとつをなむあかぬ事かなと

(エニウ)

1 なからふる—なからうる  
 2 こころくるしとおもふ—心くるしう思  
 2 御まいり—まいり  
 3 をとろかすはかり—おとろく斗  
 6 うつくし—あはれにうつくし  
 7 7 みたてまつり—おもひきこえ  
 7 ゆつるましく—ゆつるましよう  
 9 おもほす—おほす

おほしける三日すくしてそうゑはまかて  
たまひけるたちかはりまいり給よ御たいめ  
ありかくをとなひたまふけちめになむ  
とし月のほともしられ侍はうとくしきへたては  
のこるましようとなつかしうのたまひて  
ものかたりなとしたまふこれもうちとけ  
ぬるはしめなめりものなとうちいひたる  
けはひをうへこそはとめさましようみ給又  
いとけたかくこめかしうさかりなる御  
けしきをもかたみにめてたしとみてそ

(十三才)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

1 すくして―すこして  
2 たまひける―させ給  
2 たちかはり―たちかはりて  
2 御たいめ―御たいめん  
4 侍―侍れ  
5 のこるましよう―のこるましく  
8 けはひを―けはひなと  
8 うへ―むへ  
9 けたかく―けたかう  
9 こめかしうさかりなる―さかりなる  
9 御けしきをも―御けしきを

こらの御なかにもすくれたる御こゝろ  
 さしにてならひなきさまにてきた  
 まり給けるもいとことほりと思しら  
 るゝにかうまでたちならひきこゆる  
 契をろかなりやはとおもふものからいて  
 たまふきしきのいと事によそほしく御  
 てくるまなとゆるされたまひて女御の  
 御有さまにことならぬをおもひくらふるさ  
 すかなるみのほとなりいとうつくしけにひ  
 るなのやうなる御有さまをゆめの心ちして

(キリウ)

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

2 ならひなきさまにて—ならひなきさまに

5 契—ちきり

6 御てくるま—御手車

8 おもひくらふる—おもひくらふるに

9 ひみな—ひゝな